

研究実施のお知らせ

2023年2月13日 ver.1.0

研究課題名

透視下内視鏡における医療従事者の放射線被ばく量に関する後ろ向き研究

研究の対象となる方

本研究を行うにあたり2021年4月から2024年3月の間に2か月以上透視下内視鏡に携わった消化器内科、肝臓内科の医師または中央放射線部看護師

研究の目的・意義

透視下内視鏡には通常の大腸内視鏡だけでなく、食道静脈瘤の治療、消化管ステント留置術、内視鏡的逆行性胆管膵管造影とそれに伴う処置、近年は小腸の観察を可能にしたダブルバルーン内視鏡など、多くの手技が含まれます。もはやX線透視画像がなければ癌をはじめとする疾患における内視鏡診療は成り立たない状況です。一方、内視鏡技術の高度化、技術の複雑化が進んでおり、それに比例した医療従事者の被ばく量の増加が問題となっています。2021年以降の医療従事者の職業被ばくと対策の効果を検証することを目的としこの研究を計画することにしました。

この研究は、中央放射線部に勤務する医療従事者の放射線被ばく量を後ろ向きに解析します。あなたの年齢や性別、職種、勤務状況、職業被ばく防護対策の実施状況が職業被ばくに及ぼす影響を明らかにします。これらを明らかにすることで適切な被爆防護対策の実践が期待されます。

研究の方法

利用する情報の項目：以下の6項目を取得します。1)から4)は所属長、5)は中央放射線部師長、6)は放射線部技師長から聴取します。

- 1) 年齢
- 2) 性別
- 3) 職種
- 4) 勤務状況（放射線透視下内視鏡業務）
- 5) 職業被ばく防護対策（放射線装置更新、防護板や体位固定具の導入）の実施状況

6) 放射線被ばく量

収集したデータは、島根大学医学部第二内科医局内の外部から容易にアクセスできないPCに保管します。PCにはセキュリティを設定し、パスワードで使用可能な研究者を制限します。研究対象者リストはデータとは別に、施錠可能な場所で研究責任者が適切に保管します。外部への持ち出しは行いません。研究に関するデータ及び関連資料（研究に関する手続き資料を含む）は、研究結果の最終報告を行ってから10年間は保管し、その後保管の必要性がなくなった時点で研究対象者の識別が不可能な状態で廃棄（消去）します。

研究の期間

2023年3月（研究許可後）～2025年3月

研究の公表

この研究から得られた結果は、医学関係の学会や医学雑誌などで公表します。その際にあなたのお名前など個人を識別できる情報を使用することはありません。

研究組織

この研究は次の機関が行います。

研究責任者：

島根大学医学部附属病院消化器内科 福庭暢彦

情報の利用停止

ご自身の情報をこの研究に利用してほしくない場合には、ご本人または代理人の方からお申し出いただければ利用を停止することができます。

なお、利用停止のお申し出は、2024年9月までをお願いいたします。それ以降は解析・結果の公表を行うため、情報の一部を削除することができず、ご要望に沿えないことがあります。

相談・連絡先

この研究について、詳しいことをお知りになりたい方、ご自身の情報を研究に利用してほしくない方、その他ご質問のある方は次の担当者にご連絡ください。

研究責任者：

島根大学医学部附属病院消化器内科 福庭暢彦

〒693-8501 島根県出雲市塩冶町 89-1

電話 0853-20-2190 FAX 0853-20-2189